

## 年頭ご挨拶

2021年1月吉日  
一般社団法人 海外環境協力センター  
理事長 竹本和彦

新年あけましておめでとうございます。

2021年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

昨年は「COVID-19に明け、COVID-19に暮れた」一年となりました。この影響を受け、昨年3月頃からは海外渡航が実質的に不可能となり、海外諸国のカウンターパートとの連携の下に各種プロジェクトの業務展開を中心とするOECCとしても大きな困難に直面しました。また当初計画していた「OECC設立30周年記念行事」も延期せざるを得なくなりましたが、皆様のご協力とご支援のお蔭でこうした難局を乗り越えることが出来ました。改めましてこの場をお借りして関係各方面の皆様方に御礼申し上げます。

さて「30周年記念行事」は全体として繰り延べとなりましたが、その一環として計画しておりました記念誌の別冊としての「橋本道夫先生と私」については、当初計画通り昨年6月に発行することが出来ました。橋本先生のご功績を改めて関係者の皆様と共有することが出来、その結果各方面から前向きな反響も多く寄せられましたことをここにご報告申し上げます。

またOECCは、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大に対し、国際社会はどう対処し、今後ポストコロナ、ウイズコロナの状況下においてどのような教訓を学び今後どのような方向に向かっていくのかに関し、最新情報と各方面における知見を集約することを目指し、昨年4月「ポストコロナ勉強会」を立ち上げ勉強を重ねてまいりました。その検討結果については随時会報やウェブサイトでの掲載などを通じて共有させて頂いているところです。

さらにOECCは、オンラインセミナーやウェブを活用したバーチャルな国際会議など、国際環境開発協力の新たな実施方法にも積極的に取り組み、能力向上に努めているところです。

加えて、昨年9月には、環境省のイニシアティブにより、「環境インフラ海外展開プラットフォーム」(Japan Platform for Redesign: Sustainable Infrastructure. 以下、JPRSI)が正式に発足し、OECCは、その事務局を担当することになりました。このJPRSIに対し、関係各方面から高い期待が寄せられており、OECCとしても引き続き貢献していく所存です。

さらに一昨年のCOP25(マドリッド)において小泉環境大臣のリーダーシップの下、「フルオロカーボン・イニシアティブ」(Initiative on

Fluorocarbons Life Cycle Management: IFL)が発足し、フルオロカーボンのライフサイクル全体を通して対策を強化する国際連携ネットワークが構築されました。IFLは世界の各方面からの多くの支持を得ており、OECCはこのイニシアティブの事務局として一層の発展に貢献していく所存です。

今後もこうした状況下で新しい日常の確立を念頭に置き、新たな発想で仕事をしていくことが求められますが、上述した課題への対応をはじめとする新たな挑戦に果敢にチャレンジしていく所存ですので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。